

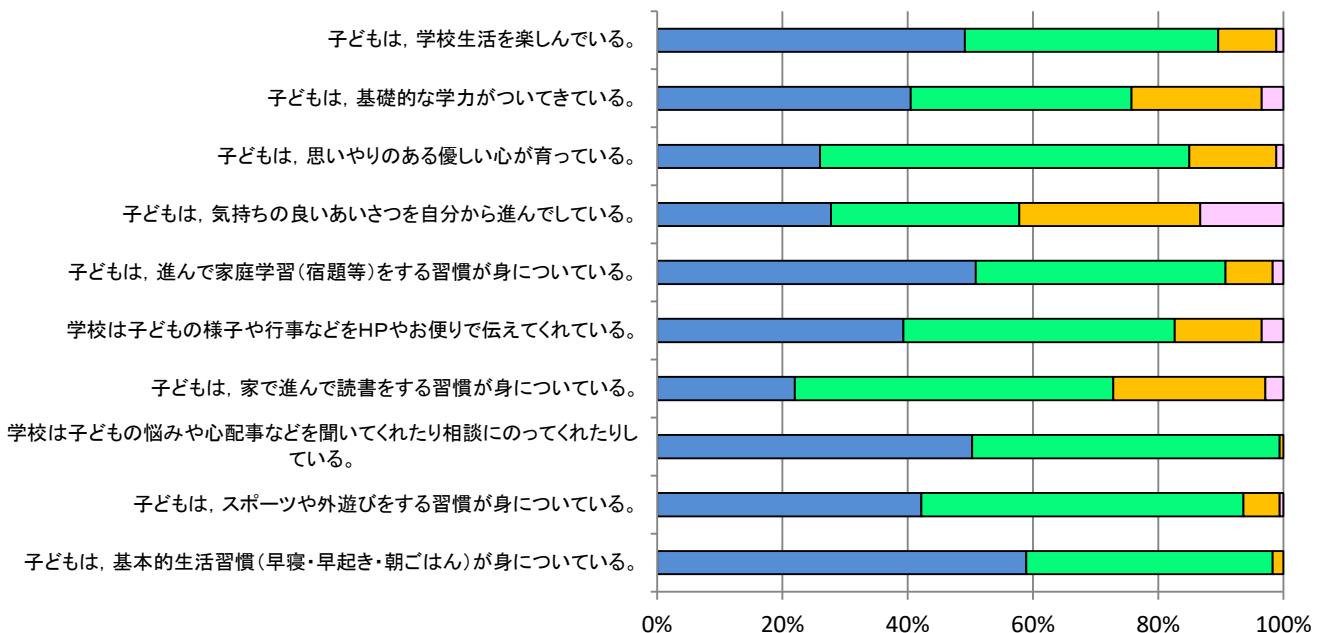
## 令和4年度 学校評価アンケート(12月実施)の結果

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。平素は本校教育にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、12月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。アンケートは保護者、児童から調査を行い、グラフに表しました。今回は、前回に引き続きインターネットを活用してアンケートを実施しました。その結果、以前よりも回答数が減少してしまいましたが、今後もこの方法で続けていく予定ですので、ご協力よろしくお願いします。アンケート結果を今後の学校運営に活かしていくよう、努力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

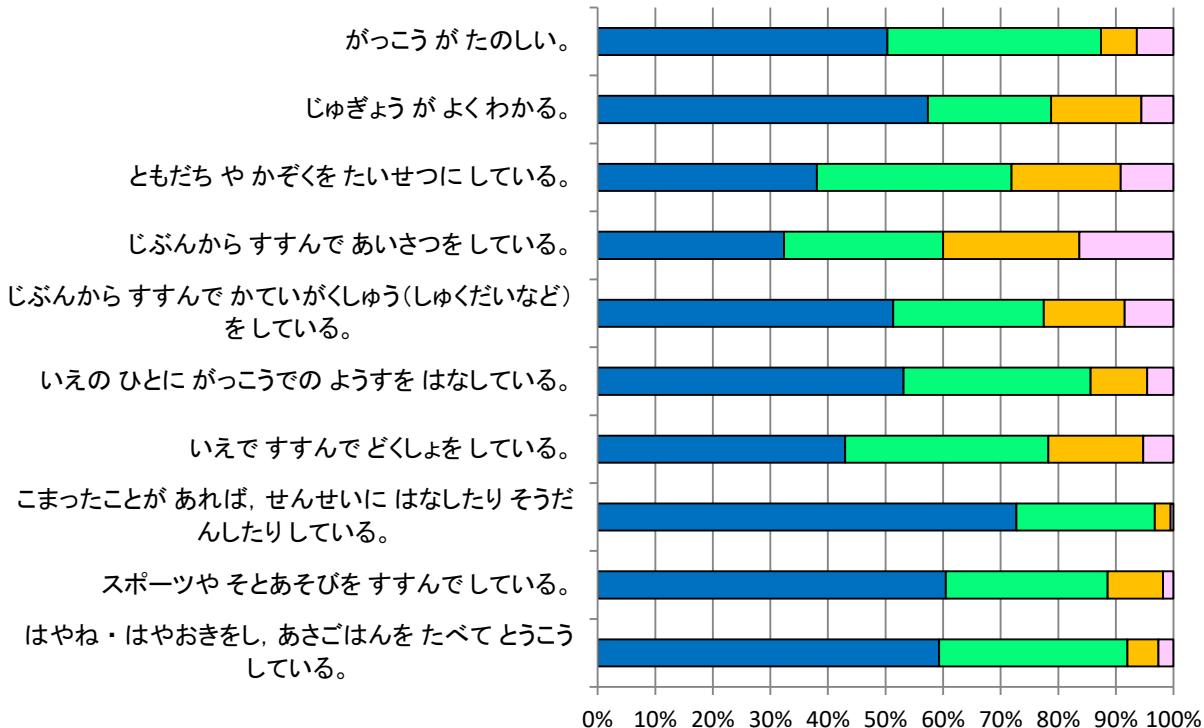
グラフは左から「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」で、保護者アンケートはいちばん右に「わからない」を表示しています。

## ①保護者のアンケートより



保護者アンケートの結果の中でプラス評価(「そう思う」と「大体そう思う」)が大きく上昇したのは、「子どもは気持ちの良いあいさつを自分から進んでしている。」の項目で、前回(7月)の調査よりも4.0%も上昇しています。とはいえ、まだプラス評価が72.9%と、全体の4分の3には届いていません。いつでも、どこでも、だれにでもあいさつがきちんとできる子どもを育てていくような取組を、学校としても工夫していく必要があると感じています。さらに、「子どもは、家で進んで読書をする習慣が身に付いている。」の項目ではプラス評価が前回よりも5.0%も上昇しました。毎回一番大きな課題として挙がっていた項目ではありますが、少しずつ学校の重点目標でもある読書習慣が家庭でも定着し始めた結果であるのかもしれません。ただし、数値が上がったとはいってもまだプラス評価全体では57.8%と、6割に届いていません。今後も、恵まれた読書環境のある学校として、子どもが学校でも家庭でも読書する習慣を身に付けられるように取組を進めています。今回の調査で、前回に比べて最も数値が下がった項目が「子どもは、基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が身に付いている。」の項目で、前回調査よりも3.2%も減少しました。季節が変わり、寒くなつたために朝起きる時間等が遅くなっていることも影響しているのかもしれません。規則正しい生活習慣は、子どもたちが豊かな学力を身に付けるためにも大変重要になってくる項目です。いつでも元気に、よい状態で学習に臨めるよう、家庭と連携した取組を考えていく必要があるかもしれませんね。他の項目では、「子どもは、基礎的な学力がついてきている。」で93.6%のプラス評価をいただいている。前回調査よりも少し減少はしていますが、今後も子どもたちにしっかりと学力を定着させていけるよう、日頃の授業から丁寧に学習に取り組んでいきます。さらに、「子どもは学校生活を楽しんでいる。」の項目では98.3%のプラス評価をしていただきました。多くの児童が楽しく学校生活を送っていると評価していただき、ありがとうございます。しかし、学校としては残りの1.7%がプラス評価になるよう、すべての児童に細やかで丁寧なかかわりをしていくよう心掛けていきます。さらに、「学校は子どもの様子や行事などをHPやおたよりで伝えてくれている。」の項目では、90.8%と9割以上の方からプラス評価をいただきました。学年によって偏りがある等のご意見もいただいているが、学年の取組を発信できることを評価いただき、ありがとうございます。今回のアンケートでは、回答していただいた保護者の数が前回と比べて56%にとどまりました。この点に関しては、学校からの働きかけが十分ではなかったのかもしれない反省しています。保護者の皆様に学校での取組に関心を持っていただけるよう、いろいろな形で発信していきたいと思います。この評価に甘えることなく、今後も子どもを中心とした教育を学校でも進めています。

## ②児童のアンケートより



児童アンケートの「学校が楽しい」の項目では、前回調査よりも少しプラス評価は減りましたが、それでも92.0%の児童が学校を楽しく感じています。残りの8%の児童も楽しく感じられるように、今後も子どもを中心据えた取組を進めていきます。「授業がよくわかる」の項目では、前回7月の調査と比較してもほとんど変化はありませんでしたが、昨年の7月から比べるとプラス評価は上昇しています。今年度は新型コロナウイルス等の影響による学級閉鎖などが昨年ほどではなく、授業時間もしっかりと確保できていることから、学習面でも児童は自信を持つことができているのではないかでしょうか。今回の調査では、88.6%の児童がプラス評価をしていました。今後も児童が学習に自信を持ち、主体的に学ぶことのできる授業を構築していきます。今回の調査で最もプラス評価が増えたのが、「スポーツや外遊びを進んでしている」の項目でした。全体の78.8%と、8割近い児童が自分から外遊びやスポーツに取り組んでいることが分かりました。学校でも運動委員会の取組(ドッジボール大会や大なわ大会)等で、休み時間に外で遊ぶ児童が増えています。教員も一緒になって遊ぶ姿もたくさん見られました。逆に最もプラス評価が減少したのは「困ったことがあれば、先生に話したり相談したりしている」の項目で、前回調査よりも3.7%も減少し、プラス評価は71.9%でした。約30%の児童が、先生に相談しにくいと感じている現状をしっかりと受け止め、児童の思いを大切にしていくかかわりを工夫していきます。また、「自分から進んであいさつしている」の小横目でも、前回より3.3%プラス評価が減少しました。その一方で、様々な場面で自分から進んであいさつをする児童は増えているように感じています。しかし、校内ではできている児童が増えていても、学校外に出た時にはあいさつがきちんとできていないのも事実です。保護者アンケートでは逆に上昇している項目でもあり、なぜ児童アンケートでは数値が下がったのかの理由を検証していく必要があると考えています。児童アンケートの結果の中で最もプラス評価が低かった項目は、毎回同じですが「家ですすんで読書をしている」の項目で、60.0%でした。これは、前回調査(7月)よりも0.8%減少し、このままでは60%を切ってしまうかもしれません。本校の重点目標でもある読書習慣の定着が、児童アンケートからも十分ではないことが分かります。学校だけではなく家に帰ってからも読書に親しむことができるよう、コミュニティ図書館を利用し、団体貸出などの機会を活用して、子どもたちに読書の機会を提供していきたいと思います。両方のアンケートの結果については教職員で共通理解を図ることで、今後も改善に努めていきたいと思います。教職員一同、深草小学校の子どもたちのために力を尽くしていきますので、ご支援・ご協力をお願いします。



### わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。